

# 三十番神

その日を守る神々

匠 探訪

— 43 —

市内北部の豊和、吉田、飯高地区には日蓮宗寺院が多くあります。現在、宗教法人として登録されている75か寺のうち、27か寺が日蓮宗です。

安房小湊（鴨川市）生まれの日蓮が1253年（建長5年）に開宗宣言した日蓮宗は、鎌倉新仏教のひとつで、市内北部地域で布教されたのは1330年代以降のこととされています。

今年（文応元年）は日蓮が1260年（文応元年）に時の最高権力者北条時頼に『立正安国論（りっしょうあんこくろん）』

を提出してからちようど750年にあたることで関東（神奈川県立歴史博物館）と関西（京都国立博物館）で特別展が開かれました。

神奈川での「鎌倉の日蓮聖人中世人の信仰世界」には、多古町をはじめ県内の日蓮宗寺院からゆかりの品々が多数出品されました。それらを目にした中で、今回は「三十番神」を紹介しましょう。

三十番神とは、1か月30日を毎日交替で国家や国民などを守護するとされた神々のこととす。たとえば、1日は熱

や関東では中山法華経寺（市川市）中心に広まったとされています。

市内の日蓮宗寺院では、大寺（豊和地区）長福寺の境内にあるお堂が「三十番神堂」と見られます。

同寺は680年ほど前に開かれたという由緒を持ち、本堂に面した小堂に、中央の像の左右に15体ずつ神像が立ちならんでいます。堂の前には1671年（寛文11年）に立てられた石灯籠（いしどうろう）があり、この頃にまつられたとも考えられますが、正確なことはわかりません。

長福寺のある大寺地区には真言宗寺院もあり、同寺境内には江戸時代の多様な石造物がまつられ興味が尽きません。たとえば、市内でも同寺の2基しか見つかっていない帝釈天（たいしゃくてん）や大黒天、十七夜塔などです。

日蓮宗の守護神信仰にはこの三十番神をはじめ、鬼子母神（きしもじん）、十羅刹女（じゅうらせつにょ）、妙見（みょうけん）菩薩など多様な神々がみられます。市内の日蓮宗寺院からもそれを知ることが出来ます。

問 八日市場図書館 ☎ 73・3746



三十番神堂と見られる、長福寺（大寺）の境内にあるお堂

田大明神、2日が諏訪大明神というように全国の代表的な神々が30日まで決められていました。この三十番神信仰は、平安時代中ごろから天台宗ではじまったとされ、日蓮宗では京都の諸寺